

◆理事長挨拶	1
◆1.法人の概要	2
1.東海学園の創立	2
2.校訓と校是	2
3.学校法人東海学園の沿革	4
4.学校法人東海学園 機構図	4
5.学校・学部・学科等の学生数の状況	5
6.役員概要	5
7.評議員の概要	6
8.教職員概要	6
◆2.事業の概要	7
◆3.財務の概要	8

東海学園理事長 MESSAGE



東海学園 理事長 豊岡 隼尔

東海学園
学報

2020.9 NO.21

学校法人 東海学園

学園本部事務局 〒461-0003 名古屋市東区筒井一丁目2番35号 TEL(052)936-5515 FAX(052)936-5518

東海学園大学大学院・東海学園大学・東海学園高等学校・東海高等学校・東海中学校

浄土宗の僧侶養成を目標に設置されたのが明治21年、ということは本年で132年目を迎えた訳で歴史と伝統ある東海学園の理事長にという話を戴いたことは、正に驚天動地!!

正直びっくりというのが感想である。当人がその調子なのだから、周囲の関係の方々がどのように受け止めて下さるのかな?という不安もある。日本の動脈とも言える東海道の中心に位置し、その存在感を日本中に示している名門学園なのですから。

『東海』の中興・学祖で、後の浄土宗大本山増上寺法主 椎尾辨匠師が説かれた校訓「勤儉誠実」と校是の「共生き」のころは、学園の揺るぎない理念として受け継がれています。

この「共生き」とは、昨今、自然との共生、また、動物との共生とか言われている共生(きょうせい)ではなく、「ともいき」であり、現在も浄土宗劈頭宣言にもありますが、「世界にともいきを」の共生であります。

浄土宗の宗祖が法然上人であり、その精神を心に受け継いだ教育という事になります。私自身の椎尾大僧正の思い出としては、まだ小学校であった昭和24年、今の自坊 伊賀上野 念佛寺に受戒会の戒師としてご出座戴いたこと、昭和35年、大学入学時に父(益人)と共に増上寺に入学のご報告に伺ったこと、もうその時は目がご不自由であられましたが、やさしくお声を戴いたこと、法然上人の750年大遠忌の時

総本山知恩院にお下がりになり、真葛庵に入られたことなどが思い出されます。

東海学園の理事長になって、様々なことを思い出しますが、私より3代前の堀田理事長とのご縁は、師が三河の大樹寺管主に推薦されたとき、時の宗務総長 水谷幸正師の命を受け、そのお願いにご自坊である高岳院に伺った事、その大樹寺管主様から大樹寺の責任役員になれと命じられお受けしたことなどが思い出され又、先々代理理事長 水谷幸正師には、その総長時代に公室長を命じられたこと、先代理理事長 袖山榮真師とは同じく水谷内局の東京事務所長として一緒に仕事をさせていただいたこと等思い出せば、東海学園とはかなりご縁が深いと言えるかもと考えました。

初代理事長から歴代お勤め頂いた理事長の足元にも及ばぬ存在ではありますが、一寸の虫にも五分の魂、一生懸命努力し少子高齢化という大変難しい時代ではありますが日本全国の東海学園関係の先輩と共に、学園発展のため努力して参る所存であります。張り切りすぎず、一步一步着実にであります。

合掌

